



表彰を受ける功労者ら。清本さんは代理出席
(28日、宮崎観光ホテル)

協会観光県 清本さんに観光功労者表彰 延岡商議所前会頭 地域振興に尽力

県観光協会は28日、宮崎市内で今年度の「会員の集い」を開催。観光功労者を表彰し、延岡商議所前会頭の清本英男さんら個人2人と3団体に表彰状などを贈った。なお清本さんは代理出席。

会員の集いは、賛助会員や市町村観光協会の関係者ら約180人が出席。米良充典会長が「叱咤(した)した」激励があり、宮崎の

観光をどう再生すべきか、考えていきたい。功労者は、宮崎を九州、全国へ発信し、つぎの世代へバトンをつないでいた。清本さんは会頭として、長年にわたり高速道

路の早期開通に向けた活動で、東九州自動車道の開通などに大きく貢献した。延岡大師祭協賛会長、まつりのべおか推進協議会会長などとして地域振興にも尽力。「日豊経済圏開発促進協議会」などの観光振興活動などを

通して、大分県南地域との広域観光の振興にも寄与した。そのほか、西都市の写真家黒木一明さん、都井岬振興会(串間市)、都城歴史観光ガイドの会、県ラグビーフットボール協会が表彰を受けた。

古代から中世の遺構

興味津々

延岡市教委が市民説明会

延岡市教育委員会は26日、城山公園北東側麓の野口遵記念館建設地内

で、同記念館建設に伴って実施している埋蔵文化財発掘調査に関する市民説明会を開いた。計約100人の市民が訪れ、調査期間は昨年11月6日から3月末まで。26日



多くの市民が訪れた埋蔵文化財発掘調査の市民向け現地説明会（野口遵記念館建設地）

現在で約1000平方メートルを調査し、延岡城の内堀の構造が確認できたほか、周辺から古代から中世にかけての溝状遺構や掘立柱建物跡（柱穴）、古墳時代の田壇周溝などが見つかった。

市民説明会は、これまでの調査の結果や成果について市民に知ってもらおうと開催。このうち、午前の部には延岡城に関心の高い市民や、歴史愛好家ら約50人が参加。文化課の職員が遺構などを指さしながら、分かりやすく話した。

絵図では「空堀」と描かれている内堀については、幅約12メートル・深さ3メートル以上で、堀の西側のり面

は城山の岩盤を利用し、東側は素掘り。石垣が出土したが、昭和初期ごろに敷地を広げる造成工事で築かれたと考えられることなどを説明。

周辺で重なるように発見された田壇の周溝は古墳時代、掘立柱建物や溝

状遺構は古代から中世にかけて築かれたとみられる点などに触れ、職員は「延岡城が築城される以前の城山周辺の土地利用の一端が明らかになった」と話した。

同市富美山町から参加した女性（76）は、「発掘

現場の前を通る時に何か出てくるのかと楽しみに思っていたが、古墳時代の遺構や人の生活の跡にはびっくりした。出土した器も復元され、ロマンを感じることができた」と話していた。

ベガルタ仙台 キャンプイン 延岡

20年連続21回目となるサッカーJ1ベガルタ仙台の延岡キャンプがきょうから、本格的にスタート。2月9日まで、西階陸上競技場でトレーニングに励む。

チームによると、今回は選手や監督・スタッフら約50人が参加。28日まで沖縄県で実施していた1次に引き続きキャンプに位置付けており、初日の29日はオフだった。

きょう午前中は、体を動かすことを中心にしたメニューや基礎的な技術練習に取り組み、声も出て活気にあふれていた。

木山隆之監督は「延岡ではベースを見直すことに取り組んでいき、チームをつくっていく。多くの人に見に来てもらいたい」と来場を呼び掛けていた。

期間中は基本的に見学可能。ただし5日前、西階陸上競技場

9日は非公開となる。日程はチームの公式ホームページで確認できる。今夜は恒例の歓迎レセプションに参加

……

ミニゲームで体を動かす選手たち(きょう午前、西階陸上競技場)

